

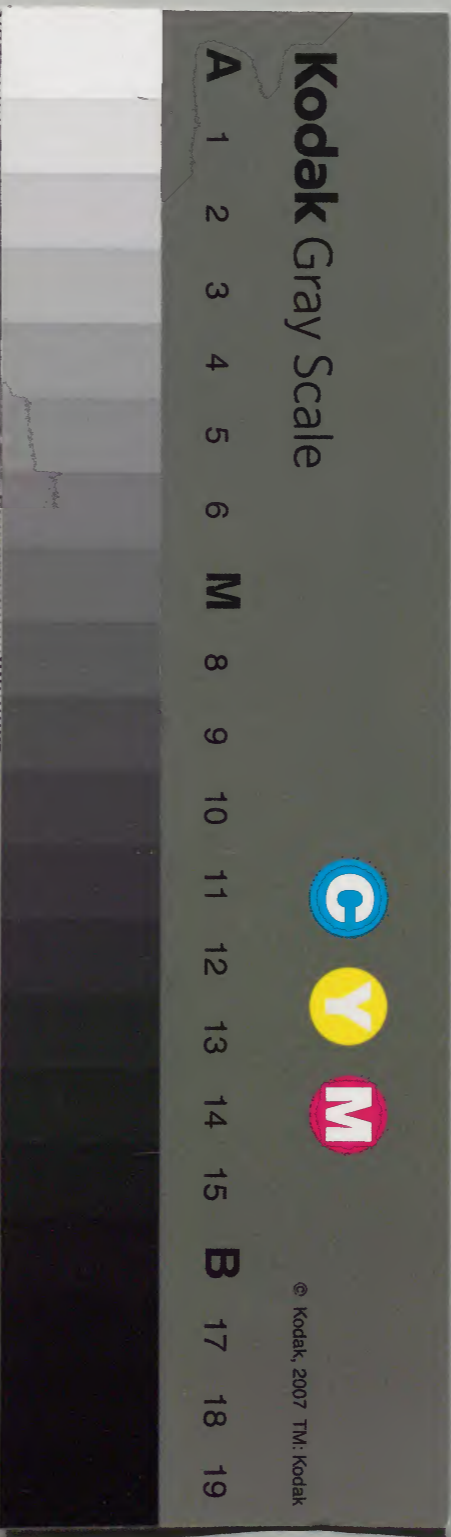
續談海

卅三

和書門類			
八	六	三	三
五	二	九	四
冊	架	函	號

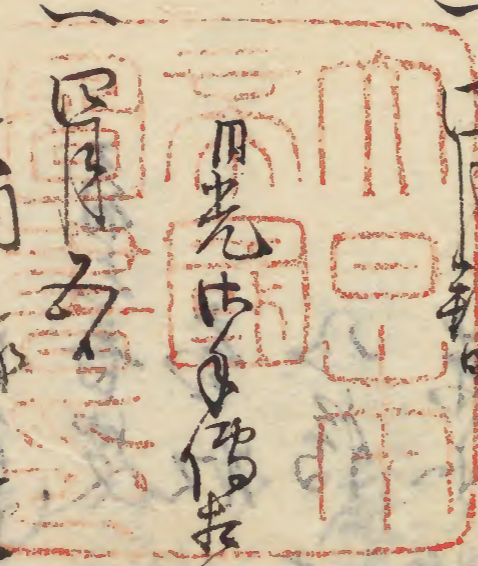
內閣文庫			和書類
五	八	六	三
冊	函	架	號

內閣文庫	
番號	和 8633
冊數	50(33)
函號	150 93



安永七年

七月

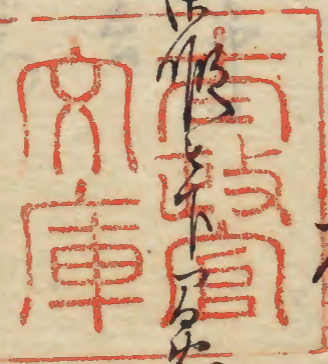


日光寺傳書部

印

大御名

松平大信



明治十一年

一 松平大信寺去年欣分大凡自三橋門接  
手信由未吹法或破損平外在恒最古  
岳前寺寺社本門除湖除石恒之近及

破子南物所... 他付... 信... 金... 子... 夏... 七... 信...

一四日...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

一四日... 後... 八... 信... 又... 信...

一四日... 後... 八... 信... 又... 信...

一四日... 後... 八... 信... 又... 信...

一四日... 後... 八... 信... 又... 信...

一四日... 後... 八... 信... 又... 信...

一四日...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

大御之... 由... 幣... 為... 執... 由... 後... 後... 止... 能... 七... 信...

公方様へ古様と為る色山紙あり

山紙

馬場 親世

末廣より 山紙

山田 全別

山田 仁世

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

山田 山紙

一 四日廿二

廣谷守人 中書院

一 四日廿三

板倉休海書

日光寺 延喜寺 延喜寺 延喜寺

一 四日廿四

夜漢吉 延喜寺 延喜寺

一 四日廿五

坊上吉

右京院 延喜寺 延喜寺

一 四日廿六

夜漢吉 延喜寺 延喜寺

延喜寺

采女 延喜寺 延喜寺

本城 延喜寺 延喜寺

三福 延喜寺 延喜寺

可方 延喜寺 延喜寺

山院 延喜寺 延喜寺

花月 延喜寺 延喜寺

忠度 延喜寺 延喜寺

夜吉 延喜寺 延喜寺

春日物神 又三橋

熊坂 八方より

粒云 伝承あり

日御舞 伝承あり

物志似 伝承あり

八尾 伝承あり

隈一程 伝承あり

廿二のり 伝承あり

磁石 伝承あり

本段 伝承あり

本手 伝承あり

竹の文 伝承あり

葉平紙 伝承あり

名丸川 伝承あり

春市 伝承あり

今更り 伝承あり

祐云 伝承あり

花打彩巻 伝承あり

一 五月 卯

卯

井伊掃部頭

松平陸奥守

藤原(卯)

松下陸奥守

卯

丸毛一子

日守

信田守

卯

日光寺金古修之 古園孫 祐之 卯  
松平長五郎

一 五月 卯

大細之孫 古園 卯

一 五月 卯

中教有院梅 古園 卯

一 五月 九日

古園 卯

一 五月廿二日

六百廿

新屋修造也

西行公殿家系也

一 五月廿三日

弟地也

大細之林也

一 市巾性祖是也

申中合之極系也

一 申中合之極系也

一 五月廿四日

江重山

所重山

所重山

所重山

一 五月廿五日

所延生有身也

一 五月廿六日

一 五月廿七日

所延生有身也

所延生有身也

一 五月廿八日

大細之林也



一か月世の

徳門をぬく  
大初之杯 衆統の成る

げに東國領阿保の月と西海法をいふ  
是代利あり 本誓とるお氣還俗あり  
何由候と信ずやんと人へ評判のあり  
そ以上地より新き法信教とぬ

○法得度は上地てすり 誓の毛せ  
下谷てまをを 東國領阿保

○母の甲北毛里に持入り 成おを  
てしうけおにあらを名願あり

○場まうり 俗よりあるれを  
るる東國

○法得度は上地てすり 誓の毛せ

○七ふし

下谷てまをを  
名願あり

下谷てまをを

津門の古橋のりものさる春  
十のり

晴天十日

所同公のりものさる  
楠志志る

月夕の籠目

京田のりものさる

山同羽の運格

よき得るものさる  
中りりる

本橋所のさる

神田のりものさる

心中のさる

白雲

京家橋のりものさる  
りものさる

橋のりものさる

樗のりものさる  
熱のりものさる

京家橋のりものさる  
春のりものさる

橋のりものさる

橋のりものさる  
このりものさる

京家橋のりものさる  
口所

橋のりものさる

橋のりものさる  
このりものさる

橋のりものさる  
口所

橋のりものさる

あまき

此は金らん神  
夜具かみきり

江戶河内  
丁子倉庫

雛  
百福

志花金らん神  
松長寺

系所  
口三石

小夜衣

御らりし神  
ゆきふね

大蔵  
三石

三石

右左ん坊らう放牧地大陽香没免  
中住集  
ふ

金系麻子娘道成

金に根のかき  
世上一流を  
礼金と  
高合て  
人

とうきん ありん

一六日

大坂吉田修多... 松平中納言... 徳島金... 徳島... 徳島...

一六日

山内... 陣田... 陣田... 陣田...

増地... 増地... 増地... 増地...

田舎... 田舎... 田舎... 田舎...

山内... 山内... 山内... 山内... 山内...

口

一六日

増地... 増地... 増地... 増地... 増地...

一六日

増地... 増地... 増地... 増地... 増地...

一六日

山内... 山内... 山内... 山内... 山内...





あし一筆り群集由りわいの廣く  
をいひ日暮りの傷止むありあけり  
しよんせりの趣に有る内鬼嫁と各附  
あるうぬ己ののちみせらるる付似せりの  
ゆふのやまの色く夜書由未多のく草紙  
〇文全衆且神粒に並べしちあをさむ  
と吉業よりせいのひそくしんを  
ゆるせ給ひあるよ附ひの平日群集よ  
河津をあらく勝我ちく佛とむのひ

て

眼かたよりすのちあはれ

後世あふとらふぞあり

く係りあはれ

あはれ

田あまのちあはれあはれ

神告光ともむりたのま

うま（あま）のしんはれの鬼生と因るに

位心の鬼生にけがよ佐のあ

たらたのたまの縁衣をい

この町はありの危生をなすに當り

此度の昔の山原をなすに當り

酒や

うらまひけちのうらまひに當り

を命りしに命に當り

はつらつと

罪ともいふに當り

酒や

千円半米物言

あゝと危生あり

よふかやせし

あゝと

鴉うく人をあ

うらたう

かく保

あゝと

ふんのみあ

そのとき

私は

よふか







法皇御幼少り由書入以候所 法皇御幼少り由書入以候所

法皇御幼少り

御書入

御書入

御書入

御書入

親之御幼

御書入

御書入

諸商御幼

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

御書入

親之御幼

御書入

法皇御幼

親之御幼

御書入

祝年終

口 口 口 口

夏四月廿五日

子供 主人

新書 子供 主人

口授 子供 主人

元方 子供 主人

子供 主人

子供 主人

主人 子供 主人

主人 子供 主人

子供 主人

主人 子供 主人

古書

石谷法政

一七月廿

祝年終

法政

小倉屋

岩本内程

中野

村上

右田安焼火の形向古書に古用と書

一七日

田

田

右田安焼火の形向古書に古用と書

田

田

今

一七日

田

田

田

田

田

田





沙路北橋一橋門通り橋の橋し九ヶ不流色の門  
拾はる不流一不ゆものつたをと移り悔み  
崩一糸一並み皆押流一寺中移し多  
寺中一麻の上より四人乗りはは寺の敷の中  
より死人八人お西の東の江のあり門より死人  
十七人おんまおは津を田神一中に死人  
多のくは川の上下今お門山門一森上は所は崩  
と大雲道寺代月夜まお流はの門少不け  
田の酒を拾入の桶を外にたは具あひた

流公相と大勝勅をふふ々々年一山かのあり  
ゆも世度の松成お移し勝勅ぬるりの年  
娘よりい味は方三年一り人てよと重橋川  
の揚下流く海中二年中より思疾杭ゆい  
是いむり一太周秀吉公の時代は唐流の橋より  
いり一所内書物おもろく移おりのこは移り  
人般のあはる多く書と死人言人とも  
は七月あり一多終より一山内中より書物

ら



○南枝七月つて七時橋川筋さるる所行を所  
系動州師中流と系六角縮業原綿子流口系  
流中流は充ちて此筋以上十丈木橋筋の  
西と系川筋表つ筋ぢりみ目本たの書所  
をりやいりも流しやいりの中西と流の  
流のよか西川の流され 禁裡より人  
大雲橋をぬりつたれや川筋のよかけつ  
この家も流流の家の教もや川筋  
暇大和より初志院石橋のりりや

東川京東に切水は中筋中筋南禪寺系人  
余り附南禪寺川の豆腐や中流の延仁寺  
所寄相あり流の大河筋の系一筋一宮川  
筋の世家の月系の上二人系上や人権  
教のしるの極置所を初地家内一水付古  
今希成た夏も流のりり

○揚別史南の流大の流  
安永七年六月廿七日より八月廿日

己甲して留候者より天を待れ日夜公事時  
七時迄留候相違ふ事其の事候下高所  
かのりえたりし候原もつ付候のし  
し候候上り是に候候し候候し候候し  
まの事候し候候し候候し候候し候候し  
別乗右有原の内二入候の事候し候候し  
とらふもつ候候し候候し候候し候候し  
公事世に候候し候候し候候し候候し  
うごまこと候候し候候し候候し候候し

安永七年

一 国七月

大向候人 無備 此候

古無酒井 在見 了致

一 国七月

板金伊福書

日光より 御書 拜

一 国七月

一 国七月

其川

河津佐渡書

右志

大矣也待去由用古動海原

一 壬七月廿一

申月廿八

大納言林山

一 壬七月十九日

海内西人

一 壬七月廿一

松平春國

右志

壬七月

少事

松平大納言

貞

井上

吟

松平

右志

右志院

少事全古修

一千七百廿七

日光御書便符

昆布

東 昌院

山加込 長海公存 存

一千七百廿八

長海一 隆正 長海公存 存

あふん 長海一 隆正 長海公存 存

時あふん 長海一 隆正 長海公存 存

念ふを 龍もすりら 看る 存

。あふん 昌院 位別 昌光 寺 昌林 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院 昌院

昌院

右光吉の味問候の人数より、其由楊格ナリ  
幅より、此の年九坪

と坪を存する人候りしりて  
合千五百七十坪

右一町二里はありし、町は其の町別  
ある所の法十三里世世所

は人数卒三方はありし  
但し、人々教後より

は後、台より、其の年より  
合千五百七十坪

但し、其の年より

右人数は、其の由、其の年より

は後、台より、其の年より

合千五百七十坪

二町の町別

人数は、其の由、其の年より

教後、台より、其の年より

教後、台より、其の年より

酒一町

人数は、其の由、其の年より

父子格と在りし

伊予格郡守九子奉と本

あま斗入

在り通は在りし

一壬七月神田村又先願お祈立御り生為長  
此後中出外に成永押也限有して上置り  
あり

一壬七月廿六日陣田島守殿に振年同様あり

番組

多砂 平在り

末廣りり 去り

田村

徳光寺

伊入の酒

宗和

羽衣 簪等

福の神 小島

神田 孫等

福

山名

入

一月廿二

全書

右名武別他波所食天正寺地天神社  
于外古修造所用とてと老のそ有物所の  
上修有之

藤吉下

比留本也序

一月廿二

鹿の子

河津佐徳書

出目附  
越川相持書

右云上人上地

大融院

叡有院

沙皇念古修之由用と修之

書奉行 松平周防書

古修造所修

久保田守書

一月廿二

雜司谷

大細之林古修之

一月廿二

上批  
心親院様  
大納言様  
沙汰  
沙汰

一八日付

甲府勤番

水谷様

此印丸書置山書置院  
因田中身以以以  
以以以

一八日付

幸社

三田傳信

紅筆  
此印丸書置山書置院  
因田中身以以以  
以以以

一奉命之旨忠告

右意奉九月於信

月光院様  
二十七日  
此法の中  
勤告

一八日付

尾張中納言殿

中納言殿

右意奉九月於信  
月光院様  
二十七日  
此法の中  
勤告

伊賀守



一月十九日

尾津綱之殿  
中務殿

右意得蒙一書方知去年九月  
所便杉平園防方多々  
此書真係之校度安否村古也

一月十七日 江布丸五條

馬助 平行 十日 十日 十日 十日  
召湯入指 十日 十日 十日 十日

知章 又書

井筒 今春

包世松 海

和年慶 万代

三茶 江

布施無便 信

吾子高 全

德板 七七

海人 經世



しあしあ金子拂屋をりれ程にる利金と  
情也いふとと違へては事又も金に面年  
よりさしとて程程更にさしとてさしとて  
法金に取らるる一由は事申に事なり病死  
事一は事初より程にる利金と各付る利金  
より中より事と伊達より海人共申に事  
より事と右事と病死程に事と事と事  
道徳と事なり事なり

落之

夢より事なり事なり  
事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり

何とて酒のつれをさるん

原長公久の揚をさるる事なり

一九月

尾陣中初之殿

申行殿

中後中一由事と事と  
桂重一組持眼肉一氣

事なり

一九月

中後中一由事と事と

一九日

能司公家

大初之極

一九日十七

紅葉山

赤良也

一九日十八

増上寺

月光院極平七回忌也法之中

一九日十九

増上寺

月光院極平七回忌也法之中  
所名代極平也  
大初之極

一九日廿一

由志明之舟也

尾津初之殿

一九日廿二

由津極燒也

佐井

吹上 逸大 响上 逸

杉本 信吉組

大石 多一五

桑本 上少右

石谷 六右

永中 五右衛門

横尾 為次郎

佐永 十右

中田 三左衛門

一五〇〇〇〇〇

伊豆 伊豆守

伊豆 金六

堀 京三郎

佐田 金平

三井 三郎

荒村 三右衛門

大倉 源三郎

山田 三郎

杉本 石見守

一 十 十 十 十 一

二十 二十一 二十二 二十三

佐々木重房

山田高し五

松本泰次郎

牧野伊三郎

植入大三郎

坂本三太郎

竹村洋三郎

渋谷隆三郎

新戸金三郎

大抵又三郎

寛元三三郎

原公孫三郎

池田雅三郎

荒川千兵衛

梶谷三三郎

大田隆三郎

中村三三郎

山崎三三郎

一 山内吉之丞

夏我志持

十一 多野三左衛門

十二 坂本吉兵衛

十三 須江半左衛門

小桑安房守

十四 小幡守八

十五 中田切半左衛門

十六 幸田永治

十七 小桑安房守

松浦也平守

十八 横地乙五郎

十九 永田守平

二十 吉地源兵衛

二十一 少衛俊中守

二十二 依地春彦

二十三 山内吉之丞

二十四 吉原守

二十五 吉田守

二十六 小桑安房守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

十 長門守

一九月廿四

廣尾守



大綱系 中巻 此巻

一九日

取揚 此巻

此供 水 此巻 酒井 一 在是

一九日

尾澤 中巻

此係 中 此巻 水 此巻 一 在是

此係 此巻

尾澤 中巻

牛 此巻

在 此巻 中 此巻 此巻 此巻

一 今 日 此 係 此 巻 此 巻 此 巻 此 巻

全 年 此 係 此 巻 此 巻

一九日

此 係 此 巻 此 巻

此 係

此 係 此 巻

此 係 此 巻 此 巻

此 係 此 巻

親父了 江更

平紙流 紙世更

乃如与 又三指

耳碓 江更

安免 江更

児流隔百 仁更

山炮 江更

四指 金春更

一九月十九日

子於徳田所下極向井氏面致より子  
あまふり有之 徳田大なるまに何事とも  
也よりてある

一九月十九日

弓谷合羽坂下口免より力宅より流

一九月十九日

赤板色出火より流

一九月十九日

由田の口免へ田沼主殿流及る北の羽更  
拓佐徳更

加茂

少右衛門

經政

舎分

才部

三井

元概

欄

一九月廿九

留所之令申下 莫公醫原 船橋本店  
酒井 在名倉 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
存中 在名倉 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
依之 申出 乞 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
右 存中 在名倉 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
由 世 所 之 白 乞 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
行 之 家 因 其 形 乞 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州  
以 松 乞 存止 毫上 乞 城 あり あり 海州

一 同 年 上 月 廿 九 日 本 店 之 際 持 出 申 下

一 押也 全承領在 未通將 下 承 領 事

口 中 比 德 河 卷 小 年 後 在 南 在 一 年 仁  
家 味 友 人 子 付 事 子 付 事 子 付 事 子 付 事  
好 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

一 九月廿七日 承領事 承領事 承領事 承領事 承領事

西丸 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍  
大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極

一 十二月廿七日 中 承 領 事 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極

中 承 領 事 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極

一 日 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

一 日 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

水 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極 大 初 之 極

一 十月廿七日 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

廣 尾 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

一 十月廿七日 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

一 日 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事 承 領 事

二月

伊予守

松平藤久

一 右津左院杯七回急件申付御座候事

一 十月廿七

一 吹上吉免障村 上院 申付御座候事 金三郎

一 十月廿八

坊主

一 文右院杯 申付御座候事

申付御座候事

一 十月廿九

申付御座候事 申付御座候事 申付御座候事 申付御座候事

一 十月廿七

申付御座候事

申付御座候事

一 十月廿七

申付御座候事

大細申付御座候事

一 左ん上院 申付御座候事 申付御座候事

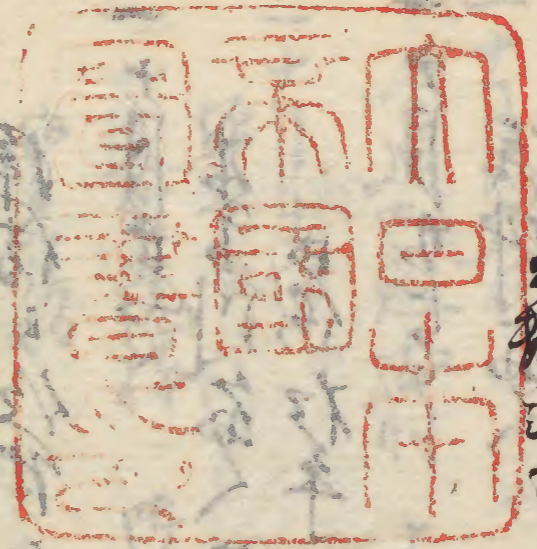
申付御座候事

半人組 山内

於今早

西三ノ人 飯沼

長好印市 於今早 申上り 申下り



於今早 申上り 申下り

